

シンポジウムプログラム

8月28日(木) 13:15~15:00 (講堂)

獣医学教育先進地域としての役割と課題

新人獣医師は大学で何をどのように学んでくるのか？

田村 豊 (公益社団法人 北海道獣医師会長) 103

1. 北海道大学の獣医学教育の概要と課題

滝口 満喜 (北海道大学大学院獣医学研究院 獣医内科学教室) 104

2. 帯広畜産大学の獣医学教育の概要と課題

佐々木基樹 (帯広畜産大学畜産学部 獣医学研究部門) 105

3. 北海道の獣医療を支える獣医師の育成を担った私立獣医科大学の役割と課題

鈴木 一由 (酪農学園大学 獣医教育改革推進室) 106

シンポジウム：獣医学教育先進地域としての役割と課題**新人獣医師は大学で何をどのように学んでくるのか？**

田村 豊（公益社団法人 北海道獣医師会会長）

食の安全確保、人獣共通感染症への対策、小動物を主体とする獣医療サービスの多様化、公務員として従事する獣医師ならびに産業動物獣医師の人材確保など、獣医師に対して様々な社会的ニーズが存在します。これらに対応した新しい獣医学教育が求められており、獣医学教育の質の保証が問われています。獣医系大学では従来から先進的な獣医学教育を実践してきた欧米の教育水準への到達を目指して、様々な活動が展開されてきたところです。EU内に獣医学教育機関の質と水準を評価する機関として、欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）があります。2019年12月に北海道大学・帯広畜産大学共同獣医学課程は、国内初のEAEVEの認証を得ております。また、昨年末に酪農学園大学獣医学群獣医学類は、単独大学としてアジアで最初のEAEVE認証を得ました。これにより、北海道で運営される全ての獣医系大学で世界水準の獣医学教育が実践されることとなります。今後、新しい獣医学教育を享受した獣医学生が北海道の様々な職域で獣医師として活躍することになり、北海道獣医師会としても大変喜んでいくところです。この機会に会員の皆様と共に業務を推進する3大学を卒業する獣医師が、大学で何をどのように学んできたかを知って頂き、各職場をさらに活性化して頂きたいと考えました。その上で、獣医学教育先進地域としての北海道の役割と課題について認識を深めたいと思います。

シンポジウム：獣医学教育先進地域としての役割と課題

1. 北海道大学の獣医学教育の概要と課題

滝口満喜（北海道大学大学院獣医学研究院 獣医内科学教室）

北海道大学は1876年に札幌農学校として開学した。獣医学部は1910年に畜産学科獣医学講座としてスタートし、1952年には我が国の国立大学では初めて獣医学部を設置した。

北海道大学獣医学部は、地球上の全ての動物生命に責任を負う自然科学としての獣医学を背景に、動物の病気の診断・治療・予防にとどまらず、アニマルウェルフェアに配慮した愛護精神の啓発、安全な動物性食品の供給、医薬品の開発、生物科学への貢献、野生動物の保護・管理と人獣共通感染症の制圧など、獣医学に対する社会の多様な要請に応えうる獣医師を養成することを理念としている。

本学部の教育目標は、動物の健康の保持増進、公衆衛生の向上、食の安全および生命科学の発展に寄与するために、獣医学に関する専門的な知識および技術を教授することにより、豊かな人間性、高い生命倫理観および国際的視野を備えた獣医師および獣医学に関する創造性を有する研究者を養成することである。

拡大、多様化の一途をたどる獣医学と獣医師に対する地球規模のニーズに対応するためには、国際的通用性を確保した質の高い獣医学教育が不可欠である。そこで、北海道大学獣医学部は帯広畜産大学畜産学部と2012年度からお互いの教育資源を結集して、共同獣医学課程（Vet North Japan, VNJ）を構築することにより、北海道というフィールド、およびお互いの特徴と強みを活かし、従来一大学だけではなし得なかった国際水準を満たす優れた獣医学教育を実施してきた。

北海道大学は、小動物臨床、生命科学および感染症分野に「強み」を有する一方、帯広畜産大学は、大動物臨床および食品衛生分野に「強み」がある。これら2つの大学の「強み」を融合することで、2019年12月、VNJが実施する獣医学教育が、欧州獣医学教育機関協会（EAEVE：European Association of Establishments for Veterinary Education）による完全認証を取得した。EAEVEによる獣医学教育の評価は、国際的機関による第三者評価と位置づけられるものであり、その認証は、実施する獣医学教育が欧州水準にあり、国際通用性を有することを意味するものである。

VNJの最大の特徴は、学生が相互に移動することでお互いの強みを活かした診療参加型臨床実習を実践していることである。診療参加型臨床実習では、学生が習得すべき技能、知識、態度をリストアップして到達度を評価する仕組みを構築する必要があり、Day 1 competenciesを設定して学生の学習成果をログブックで把握・評価している。また、クリニカル・スキルラボを整備して、学生が基本的な診療手技を習得できるよう、動物福祉に配慮してシュミレーターやビデオ教材を活用した反復学習ができる場を提供している。さらに、教務委員会に学生代表が参加し、教育改善のために学生の意見が反映される仕組みを構築している。

また、北大獣医学部の特徴のひとつに海外大学との交流が盛んな点がある。海外獣医系大学5校と連携して国際化に取り組んでおり、多くの学生が在学中に海外留学を経験し、その後の進路に役立っている。

以上のような、質の高い獣医学教育の実践には、教員ならびに教育支援スタッフの充実が不可欠であり、人員ならびにそれを支える財源の確保が最大の課題である。

シンポジウム：獣医学教育先進地域としての役割と課題

2. 帯広畜産大学の獣医学教育の概要と課題

佐々木基樹（帯広畜産大学畜産学部 獣医学研究部門）

帯広畜産大学の前身は、1941年（昭和16年）に設立された帯広高等獣医学校であり、その後帯広獣医畜産専門学校（1944年）、帯広農業専門学校（1946年）を経て、1949年に新制国立大学として畜産学部獣医学科と酪農学科の1学部2学科を有する帯広畜産大学が設立された。また、2004年の法人化により国立大学法人帯広畜産大学となり、2008年に畜産学部獣医学科と畜産科学科は、それぞれ獣医学課程と畜産科学課程に改組された。2012年には、帯広畜産大学畜産学部と北海道大学獣医学部は「共同獣医学課程」（VetNorth Japan：VNJ）を設置し、現在の両大学における獣医学教育の体制が確立された。この「共同獣医学課程」の設立は、2008年の大学設置基準の一部改訂により、共同による教育課程の実施が可能になったことで実現したもので、この「共同獣医学課程」の設立によって、各々の大学がもつ環境、施設、設備、人材といった教育上の利点を生かし、弱い部分を互いに補完しあうことによって教育の質を向上させることができるようになった。そして、この「共同獣医学課程」の設立が、その後の欧州獣医学教育機関協会（EAEVE）の認証取得へとつながっていくことになる。

帯広畜産大学において、共同獣医学課程に所属する学生の教育に対する教員組織の主体は獣医学ユニットである。獣医学ユニットは、獣医学研究部門、動物医療センター、原虫病研究センター、そしてグローバルアグロメディシンセンターに所属する教員によって構成される。共同獣医学課程の教育は、この獣医学ユニット教員を中心に、畜産フィールド科学センター（大学農場）や他ユニットの教員、そして外部非常勤講師の協力を得て行われている。帯広畜産大学は、広大な十勝という酪農や食肉生産といった畜産業が盛んな地域に位置しており、さらに、十勝は国内有数の馬産地である日高地域にも近く、また帯広市内には世界で唯一輓馬（重種馬）によるばんえい競馬が催される帯広競馬場がある。そして、十勝はこの重種馬の生産拠点でもある。学内に目を向けると、畜産フィールド科学センターには現在107頭のホルスタイン乳用牛と19頭の黒毛和種が飼育されており、その他学内にはサラブレッド、ポニー、北海道和種といった計37頭の馬が飼育されている。このような環境条件によって、帯広畜産大学では産業動物臨床、食品・食肉衛生、馬臨床といった分野の教育研究が充実している。一方、北海道大学は人口約197万人の大都市である札幌市に位置しており、伴侶動物臨床や感染症、そしてライフサイエンスといった分野の教育研究に強みをもつ。

VNJでは、国際通用性のある獣医学教育の構築を目指して、各大学の強みを担保するために関連する教育施設や設備の拡充を行ってきた。帯広畜産大学では、産業動物臨床棟、産業動物飼育棟、病態診断棟、そして動物・食品検査診断センターを新築し、帯広畜産大学の教育研究における強みの一層の充実を図ってきた。また、食品加工実習施設が簡易と畜場として承認されたことで、円滑な畜実習が可能となった。

VNJの授業形態に関して、専門科目では北大と畜大では基本同じシラバスを作成し、その内容に従って講義・実習が行われている。そして、両大学の学生が同じ教員の同じ内容の講義・実習を受ける相互提供科目が各大学の強みを生かした教育に大きく関わっている。共同教育課程を実施している大学の多くでは、学生移動のないオンライン講義が主流かと思われるが、VNJでは相互提供科目において、教員や学生が両大学間を移動するのが大きな特徴で、学生の移動によって各大学の強みを十分生かすことができるようになる。帯広に移動してきた北大生は、「農畜産演習」で豚のと畜、食品加工、搾乳を、「食品衛生学実習」で牛のと畜を体験することで、食肉衛生や食品衛生に関する知識を深めることになる。さらに、参加型臨床実習である「産業動物獣医療実習Ⅰ」では、北大生は計3週間帯広に滞在することで、帯広畜産大学の環境、施設、設備、人材を生かした実践的な教育を受けることになる。一大学では成しえなかったこのようなVNJの相互補完による獣医学教育の充実は、2019年のEAEVE認証取得実現の要因のひとつでもある。しかし、国際水準の教育を維持するにあたっては、両大の教職員に大きな負担を強いることになり、この改善は両大にとって重要な課題でもある。

シンポジウム：獣医学教育先進地域としての役割と課題

3. 北海道の獣医療を支える獣医師の育成を担った私立獣医科大学の役割と課題

鈴木一由（酪農学園大学 獣医教育改革推進室）

欧州標準時間の2024年12月11日に欧州獣医学教育機関協会（EAEVE：The European Association of Establishments for Veterinary Education）の上位機関である欧州獣医学教育委員会（ECOVE：European Committee of Veterinary Education）の総会が開催され、酪農学園大学獣医学群（RGU-SVM）は欧州獣医学教育システム（ESEVT：European System of Evaluation of Veterinary Training）が定める2019年度版標準手順書（SOP：Standard Operation Procedure）に適合していることが認められ、単独機関としてアジア初のESEVT認証（accreditation）を取得することができた。EAEVEの評価システムとは、以下の3つを保証することにある。

- ① 公共に対して認証取得機関を卒業した獣医師の質の保証、彼らの提供する獣医療行為が信頼できること
- ② 獣医学生は獣医師育成のための教育を受けるに十分な能力があること
- ③ 獣医学教育機関はそのカリキュラムを含めSOPのベンチマークレベルに達していること

特に大事なことは、社会が求める獣医師を育成すること、すなわちパブリック・ファーストである。学生は社会が求める獣医師になるために素質と努力が問われ、大学は社会が求める獣医師を育成するために適切なカリキュラムと教育環境を整えることが求められている。それ故に、入試、成績評価は厳密かつ公平に行い、学生に対して毅然たる態度で臨むことが大切である。また、学生が将来の就職先を限定してその分野だけを学ぶことを望んだとしても、社会が求める獣医師は全ての獣医療を網羅していなければならない。つまり、大学は全ての学生に対して伴侶動物（犬、猫、馬、エキゾチック）、生産動物（牛、豚、小型反芻動物、その国の特徴的な生産動物）の臨床、予防および食肉衛生、病態評価や食肉検査に必要な病理学の知識と実践教育を行わなければならないし、学生はこれらの全てを学び、技術を己のものとしなければならない。

大学は知識だけでなく、いわゆる就職して1日目にはできなければならない獣医療技術、Day One Competence（D1C）をすべての学生に習得させて社会に輩出させなければならない。ESEVTのSOPではWOAHのD1Cに基づいて設定されているが、これに加えてそれぞれの獣医学教育機関でD1Cを定める。RGU-SVMは、臨床105項目、衛生76項目、病理26項目をD1Cとして定め、これらを習得させるためにガイドブックに当たるブックレット、学びの記録に当たるログブックを整備し、卒業生の獣医師としての質保証を行っている。すなわち、改革の要は、（1）D1Cの設定、（2）実践型のカリキュラム、（3）学生が安全安心して学ぶ実習施設、（4）参加型臨床実習を確実にを行うための症例数の確保および実習受け入れ機関の確保、（5）評価機関（ステークホルダー、学生委員会）の設置、であった。課題は、学外実習である。大学では学べない現場での実践教育は必須不可欠であり、学生のキャリア教育であり、学生の就職先の決定に大きな影響力を持つ。しかし、学外実習の受け入れ先の確保は常に難渋しているが、共同して優れた獣医師を育成し、彼らを北海道に就職させるためにも北海道庁、NOSAI北海道、小動物獣医師会などと連携を強く持つことが必要不可欠である。

さて、酪農学園大学がなぜ「教育の質の改善」をEAEVE認証に求めたのかを考える。数え切れないほどの理由のなかから、尤もな回答は「EAEVEの求める教育と本学のDNAに刻まれた教育理念が合致している」からであろう。EAEVEの求める獣医師養成教育は、本学の創設者である黒澤西藏翁が唱えた教育理論である実学主義と合致している。すなわち、EAEVEの認証取得は新たな挑戦というよりも酪農学園大学にとっては温故知新であり、教育の原点回帰である。そして認証を取得した今日から、新たな実学教育としてDay One Competence教育を完成させていくことになるだろう。